

ものづくり技術
一般型
設備投資

地元農産物を使用した ヨーグルトの生産拡張

有限会社古山乳業



ヨーグルト人気の高まりを受けて開発した県産素材を使ったヨーグルトが好調



各種設備の改良・増設で増産体制を確保



温度管理がデジタル化され、安全面・衛生面の強化にもつながった

01 企業情報 profile

会社名 有限会社古山乳業
代表者 代表取締役 古山 信介
所在地 〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関750番地の8
TEL.097-575-0027 FAX.097-524-4111
URL <http://www.milk.co.jp>
E-Mail milk01@milk.co.jp (担当 古山 信介)
事業内容 牛乳、ヨーグルト、デザート製造及び卸売販売
資本金 300万円
創業 大正4年
設立 昭和46年8月11日
社員数 14名

02 概要 outline

発酵乳濃縮タイプ商品の 量産化と多品種化



古山乳業本社

03 背景・経緯 background

牛乳消費量の頭打ちと ヨーグルト市場拡大にどう対処するか

平成28年夏、乳業最大手の明治ホールディングスは、機能性ヨーグルトの年度ベース売上高が初めて主力商品の牛乳を上回る見通しと発表した。同社の『プロビオ』シリーズは、プリン体の吸収を抑える乳酸菌を配合した製品が大ヒット。機能性以外にも含むヨーグルト全体の売上は既に2011年の時点で牛乳を上回っており、大きく明暗を分けている。

同社の例に限らず牛乳消費量は年々減少傾向にある。大分県に至っては、1戸あたりの生乳生産量が全国3位(平成25年 農林水産省「畜産統計」)の位置にありながら、1世帯あたりの牛乳年間購入量は全国で42番目(平成22～24年平均 総務省「家計消費調査」)だという。

大分市佐賀関で創業100年を超える乳製品製造会社を営む有限会社古山乳業も、牛乳よりヨーグルトの方が好調だという。

同社は大分県内の契約酪農家4軒から仕入れた県産牛乳を使用し、大分県内の家庭に地産商品を提供している。同社製造の牛乳の約6割は学校給食として大分市東部、臼杵、津久見の小中学校へ供給され、残りの1/3は自社ブランドとOEM製品となっている。しかし少子高齢化等の影響で、これまで主力だった牛乳の消費量は減少局面を迎えており、TPPの行方も不安要素としてあげられる。

一方、発酵乳(ヨーグルト)部門は、全体の売上に占める割合はまだ約2割程度だが、平成15年から販売を開始した『のむヨーグルト』をはじめ、いずれも好調。湯布院のブルーベリー、大分市のいちじく、清川クリーンピーチなど、県産素材を使った商品の評判が高い。このほか通常のヨーグルトを3倍に濃縮させた『水切りヨーグルト』、おんせん県おおいにふさわしい『湯あがり のむヨーグルト』など、地域に密着した個性的な商品が売上を底上げしているという。

積極的な商品開発は、製造ノウハウの蓄積にも貢献しているという。

04 事業内容 details

ヨーグルト需要に応えるため 補助金の有効活用を実施

ヨーグルト部門の好調を受け、将来的には商品構

成の再検討も余儀なくされそうだが、同社は本件補助金をヨーグルトの量産化を図るための設備投資に活用した。ただし平成26年度は「牛乳製造の品質向上に向けた設備投資」として補助金申請をしており、将来的に導入を検討する可能性が高くなるであろうハサップ(HACCP)対策の一環とのこと。

今回の導入設備は発酵室の拡張と、発酵設備と発酵乳充填機の改良・増設、仕込殺菌タンクの増設、可動式水切りタンクの製作、ラベルシーラーの導入等を実施した。

05 成果 achievement

増産体制の拡充は 新商品開発にも効果が及ぶ

本事業の実施により、とりわけ大きかったのが、手狭だった発酵室の拡張で多量の製造量を確保できるまでに至ったことだ。カップで換算すると、これまで約7千個だった製造量が、約1万2千～1万3千個程度までの増産体制が確保できた。アナログだった温度管理がデジタル方式による自動管理になった点も商品管理体制の強化につながったようだ。

これら一連の事業は、安定操業と新商品開発の可能性、新規取引先の獲得につながったという。実際、ヨーグルトの仕込み量と種類に幅が増え、効率的な量産を実現している。水切りヨーグルトの増産と、各種新製品の販売開始も、ものづくり補助金の活用により実現が可能となったといえる。

06 展望 future

時代の変遷を読みながら 次なる百年戦略に着手

発酵室の拡張と充填機の増強はボトルネック解消に大きく貢献し、積極的な営業展開を可能にした。

古山乳業では本社東側に、新しい工場設備の増築も計画中だ。地方を拠点に事業展開をする、老舗乳業メーカーの百年目の挑戦は始まったばかりだ。

まとめ point

需要が増大するヨーグルトの増産体制を確保。百年を通じ磨きあげてきた“時代を読む眼”を見せる時機。